

八幡浜大城市長3期の成果、二次救急の管外搬送解消を評価

越智元郎

(68歳、医師、市立八幡浜総合病院救急・災害対策室長)

本年度から、これまで搬送先を決められず宇和島市や松山市へ搬送していた八幡浜地区の、土曜日日中の二次救急(入院や手術が必要となる傷病者)の担当病院が決まり、すべての曜日で管外搬送が解消されることになった。

今回4期目を迎えた大城市長が就任された12年前には、新臨床研修制度の影響もあり、八幡浜・伊方地区唯一の救急告示病院である市立八幡浜総合病院の医師不足が顕著となり、週2回の救急受け入れ停止を余儀なくされていた。その後、市から県への働きかけや平成21年の八幡浜・大洲圏域地域医療再生計画により勤務医師数が増加し、土曜日日中を除き、大洲市との広域輪番体制で対応できるようになっていた。

地域全体で医師不足・看護師不足が進む中で、救急患者受け入れのための調整を根気よく進めて下さった、八幡浜・大洲圏域の行政関係者ならびに医療機関各位に感謝申し上げたい。

(2021年5月3日、ある新聞の読者欄に投稿しましたが、残念ながら不採用でした。)